

様式第3号

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成24年度 第6回 川西市社会教育委員の会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 社会教育室 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成25年 2月27日(水) 10時02分～12時15分	
開 催 場 所		市庁舎 202会議室	
出 席 者	委 員	生田議長、安藤副議長、末澤委員、岡田委員、田中委員、 廣末委員、米田委員 計 7名	
	そ の 他		
	事 務 局	泉教育振興部長、中塚こども部長、松田教育支援室長、 岡野社会教育室長、岸本中央図書館長、渡瀬中央公民館長 中定生涯学習センター所長、井上社会教育室副主幹、 藤巴主事 計 9名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数 0名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第		1. 開会 2. 前回会議録の承認 3. 報告事項 (1) 阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会の報告 (2) 各協議会の会議報告について (3) その他 4. 議題 (1) 平成24年度年間研究テーマ「地域、学校、家庭をつ なく社会教育のあり方」について (2) その他 5. その他	
会議結果		別紙のとおり	

<p>議長</p>	<p>皆さん、おはようございます。 本日は、お忙しい中ご出席をいただきまして、ありがとうございます。 ただ今から、本年度最後になりますが、第6回の社会教育委員の会を開会いたします。 まずはじめに、本日の委員の出欠についてであります。真鍋委員、岸本委員、佐伯委員の3名が欠席されております。他の委員は、全員出席であります。 それでは、開会にあたりまして、教育委員会並びにこども部の方からごあいさつをお願いしたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">教育振興部長からあいさつを兼ねて、25年度施政方針の中の公民館における「川西まちづくり講座」等についての発言があった</p> <p style="text-align: center;">こども部長からあいさつを兼ねて、青少年ふれあいデー及び今年度の策定を目指しているこども・若者の育成支援計画についての発言があった</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。 ただ今のご挨拶の中でも、いろいろ関心のあることもあろうかと思しますので、後程意見交換ができたと思います。 それでは、会議に入りたいと思います。 そうしますと、項目の2「前回会議録の承認」についてであります。皆さん方のお手元に第5回会議録の写しを配付させていただいておりますので、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">事務局から、昨年11月28日に黒川公民館において開催された平成24年度第5回の会議録についての説明があった</p>
<p>議長</p>	<p>説明は終わりました。ただ今の説明について、何かご質問等はございませんか。</p> <p style="text-align: center;">（ 発言なし ）</p>
<p>議長</p>	<p>特に、ご質問もないようでございますので、前回の会議録をご承認いただいたものといたします。</p>
<p>議長</p>	<p>次に、3の報告事項についてであります。 先般、阪神北の社会教育委員協議会の第2回研修会がございました。事務局の方からご報告をお願いいたします。事務局からの報告の後、研修会に出席されました委員さんから、ご意見なり、ご感想等をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。 それでは、事務局から報告をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">事務局から、2月14日に宝塚市において開催された阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会について、資料1にもとづき報告があった</p>

<p>議長</p>	<p>事務局からの報告は終わりました。引き続きまして、研修会に出席されました委員の皆さんから、ご意見や感想等がございましたらよろしくお願いたします。</p> <p>阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会に出席された委員から、それぞれの意見や感想等の発言があった</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、(1)の阪神北の第2回研修会の報告については終わらせていただきます。</p> <p>次に、報告事項の(2)の各委員さんの方で所属されている協議会等の会議報告であります。前回の委員の会から今日までの間に開催されました協議会等がございましたらご報告をお願いいたします。</p> <p>B委員から、川西市生涯学習短期大学レフネックの卒業式に参加し、卒業生が晴れ晴れとした顔で卒業されたことが報告され、卒業された方々の学びを地域で活かしていただけたいし、なと思いながら発表を聞いた旨の発言があった</p> <p>C委員から、PTCAフォーラムに参加したが、今年は、特に、一体感があり、非常に目新しく、上手に構成されており、観客も一緒にそこに入っていきような一体感のある、素晴らしい出来栄であった旨の発言があった</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>以前から行われているが、前回の黒川での事務局の発言も、一生懸命広めていく経過をお話されておりましたけれど、事務局、いかがでしたでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ああいう会の一番大事なところは、押しつけにならないということだろうと思うんです。最後、教職員を中心にしながら学校の様子などを演じる劇をやらせていただきましたけども、ポイントになったのは、結論を、どのシチュエーションも出してない。例えば、携帯電話の指導をしていた場面でも、あれを指導していた教諭は、まさにあの通りの指導ですね、生です。例えば、“あんた、何かしたいことあんのんちがう”というところから、そのままの指導の場面を切り取っていましたが、あれも、おもちゃのような携帯と、お父ちゃん、お母ちゃん、あるいは友達との人間関係と、あなたにとってどちらが大事なという切口の中で、自分が、携帯なんかと上手にどう付き合うのかというところを、持ってきてはいけないとか、そういうことではなくて、本来あるべき関係性を、あんた考えてごらんよというところで、劇も終わっているんですけど。ああいう、押しつけに、結論を出して、“こうでしょ”と皆さんにお伝えしなかったところが、逆に、また、あの場面の良かったところではないかなと。だから、逆に、一体感を持つことができたのかなと。いっしょに考えていただけた。親御さんは親御さんの立場で、子ども達は子ども達の立場で、あるいは地域の皆さんは地域の皆さんの立場で、それぞれ投げかけられた問題に、それぞれの立場から参加できたということが一体感を醸し出したところではないのかなと、そんなふうに、舞台袖から見ながら、そんなことをすこし感じました。</p>

<p>C委員</p>	<p>問題点を投げかけとして、それを、問題提起をして、自分でそれを考えなさいと、こういうところですね。そのへんが良かったのかな。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私も、一番後ろで見させていただいたのですが、川西でも、これだけ若い層を含めて、立ち見が出るくらい一般市民の方を集めるというのは、よほどの中身でない限りは集まらないと思うんですけど。やはり関心がある。特に、PTAはすごいなと思いながら、いい場面だったというふうに私も感じました。</p> <p>そうしますと、次に、報告事項(3)その他であります。お手元に資料を配付させていただいておりますが、生涯学習センターの所長さんから、「平成25年度川西市生涯学習短期大学レフネック入学案内」についてのご説明をお願いいたします。</p> <p>生涯学習センター所長から、『平成25年度川西市生涯学習短期大学レフネック入学案内』等により、次のような説明があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月16日に第18期の121名が卒業 ・25年度は、4学科、各20回の講義を予定 ・今回の募集は、第20期で、1年次は「地域・環境政策学科」・「宇宙・天文学科」の2学科で、定員は各70名。2年次は「建築学科」・「水資源・環境学科」で、今回は募集しない ・オープン講座は、レフネックの在校生70人と一般公募の市民80人、計150人を対象に、三つのコースを開講予定
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>何か、ご質問等はございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(発言なし)</p>
<p>議長</p>	<p>それでは、次に議題の方に入らせていただきたいと思います。</p> <p>本年度の最後の会議になりますが、研究テーマとして「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」という大きなテーマを決めたわけなんですけど、6回にわたり論議をやりました。</p> <p>それで、5年程前から、教育委員会の方にも、何を話し合ったのかという部分を討議報告という形で、僅か2頁、3頁でございますけど、提出させていただいて参考にしていただいております。また、4年程前からは、各委員さん、独任制ということ、強く、私の方からも申しあげておりましたので、それぞれの委員さんの立場で、個々、教育委員会の方に対して、思いやら、委員として考えていらっしゃることを出していただくという形で、そちらの方が、事務局の方の参考になるのではないかなと思うわけでございますけど。</p> <p>そうしますと、協議の方に入らせていただきたいと思います。</p> <p>前回、申しましたように、委員の会で、6回にわたり、一体、どんなことを話し合ってきたのか、テーマに沿っているとはいいましたが、あっち行き、こっち行きということ</p>

<p>B委員</p>	<p>で、進め方で本当に反省をしているところなのですが、焦点を絞らない形で、その時々 の部分の中での論議を、取りあえず、会議録から列記をただけでございませう。案の案で ございませうが、その資料をお手元にお渡ししてございませう。まとめとして、今日、委員の皆 さんのご意見等々を含めて、3月には報告書を教育委員会に提出したいというように思っ てございませうので、全体の部分を参考にさせていただきたいと思ひます。</p> <p>議長から、資料の「討議報告」をもとに、本年度の会議の経過報告並びに要約等 についての詳細な説明があり、各委員のご意見やら、ご質問を受けながら、意見 交換を行い、修正・訂正をしていきたい旨の発言があった</p> <p>私が、1年間させてもらって、地域、学校、家庭、そのつなく拠点というのが必要だ なと思ひたので。考えてみれば、今、小学校区のコミュニティで、学校が、何となく中心 になっているような、コミュニティ、集まるにしても、そんな感じを受けるのですが。私 は、公民館を地域の中心にしていったらいいなと、この会議を通してずっと思ひたので です。そうしたら、「川西まちづくり講座」というのが、今度できるということで良かった なと思ひています。その講座で、公民館の運営委員とかを要請されて、公民館の運営に係 るとか、公民館講座とかを検討されたらいいなと思ひて、実は、1年間を通してのレポ ートですが、そこに書かせていただひています。</p>
<p>議長</p>	<p>とにかく、スタートが、こういうスタートの仕方をしましたので、焦点化したスタート をしてなかったもので、来年、各委員さんが、例えば、公民館につきましても公民館で分 科会のような感じで、10名いらっしやるから、こちらのグループとこちらのグループで 詰めていくという、そういう方法のやり方も、来年度、そうしないと総花的になってしまう 部分があるということをもとめながら感じたわけなのですが。青少年育成の問題な ど、それについての、これは、教育委員会、市長部局、関係ない形の中での立場で論じて いくということも必要ではないかなというような感じを、まとめながらしたわけなんです けど。ですから、列記するしか、なかったかなというような感じになります。スタート が、そもそもそうでございませうので。今のご発言の部分、すこし、どこかでまとめて 議論したいと思ひます。全体の部分につきましても、</p> <p>C委員さん何かございませうか。</p>
<p>C委員</p>	<p>それこそ、結論を出せないというか、問題提起をしながら、それを、自分たちで一つ 一つ解決策を考えるというような問題ですから、たいへん難しいなと思ひて。考えれば、考 えるほど難しいですね。</p>
<p>議長</p>	<p>社会教育委員の会は、進め方が非常に難しく、諮問でも受けていたら、答申のために 絞れることは出来るのですが、この数年間ございませうので、我々として、フリーの形 で、昨年に引き続いて同じような運営の仕方をしているのですが。E委員さん、いかが でしょうか。</p>
<p>E委員</p>	<p>本当に、丁寧にまとめておられるので、本当にありがたいことだと思ひます。参加し ていた者でも、“ああ、こうやったのかな”というふうな、初めて気づくことが、また、こ</p>

	<p>うしてまとめていただけるとあるなど。ただ、社会教育という概念があまりにも広すぎるなどという感じがしますので、後で、また、レポートでいいますけれども、もう少し、はっきりと捉えた方が、生涯学習との絡みではっきりと捉えていく方がいいのではないかと、うふうに、個人的には思っております。</p>
議長	<p>D委員さん、私は、どの「きく」を書いていたらいいのかなと。子どもの声をきくというのは、それぞれの専門の分野では、ものすごく、いま、大事なのですが、どちらの「きく」という意味だったのかなと思ひまして。</p>
D委員	<p>耳偏に、目と心を足した「聴く」という、傾聴の「聴く」を使わせてもらっています。</p>
議長	<p>分かりました。全然、捉え方が違ひまして、学者さんや、ちょっと違った所で関わっている部分があって、子どもの声をきく、子どもの人権の論議をしている時には、非常に、ここは神経を使って、相談員やら、臨床心理なんかを論じていても、結局、どの立場で、子どもの声をきくかと、上から目線ではなく、こちらが一方的にきくということではなくて、子どもの心の中の部分をきくという、子どもサイドにこちらから近づいていく。多分、そうだろうなと思ひながら、クエスチョンしたのですが。</p>
C委員	<p>軽く物事をきいてあげる場合もあるし、本格的にきく場合もあるし、いろんな場面によって、それを変えていくということになるのかな。だから、全部、当たっているのと違ひかなと、思うのだけ。</p>
D委員	<p>どれも必要だと思います。こちらから、言遍を使った「訊く」も、もちろん、訊ねることも大事だと思いますけれども、まず、耳偏の「聴く」で、相手の思いをきちっと受け止める。つい、こちらから答えを提供しようとしてしまう。特に、教職員研修に参加させてもらっても、先生方も“ちゃんと、子どもの話をきけてます”と、最初に言われるんですけども、終わった後は、「目から鱗」で、きちっと聴けてなかったというような答えを、先生方から、感想で、よくいただくのですけれども、やはり、教えてあげようと、もちろん、私たち母親もそうですけれども、自分の、ほんの僅かな経験が全てのように思ひて、子どもに、つい、答えを、先、先、言っかけてしまいますけれども、まず、その瞬間に、子どもが感じたこと、思ったことをきちっと受け止めてから、自分の経験を伝えていくのが大事かなと。先生方は、きちっとされているとは思ひますが、母親は、つい、まず、否定から入ってしまうので。</p>
C委員	<p>そのへんをこの間あったPTCAフォーラムは、上手に、先程、事務局がおっしゃったように、ポツと投げかけといて、結論を出さないで、自分で“これ、考えなあかんわ”みたいな感じで、全部、こっちに返ってくるんですね。</p>
議長	<p>ありがとうございます。 非常に、これ、拘らないと、実は、子どもの心の葛藤の部分やら、上目線じゃない部分の、それと、言遍の「訊く」というのは、司法当局なんかはこのパターンになりますし、学校の教師も、結構、チャンボンになってしまうところがありますので、我々、発言する</p>

	<p>時に、会議に出て、どちらか、ズバツと言われるんです、専門家に。何気なく、無意識で使ってしまったのを、それで、自分が子どもに対する目線の部分、しっかり、これ認識されているのかどうなのかというのを、プロから見られてしまうというか、ちょっと恥をかいたことがありますので。改めて、D委員さんに確認というか、ありがとうございます。</p> <p>F委員さん、よろしくお願いします。</p>
<p>F委員</p>	<p>すごく大変だったなと、先程もおっしゃっていましたが、先程も、</p> <p>改めて、こうやって書いていただくと、“ああ、そうだったんだ”と再確認させていただくような形になります。社会教育の位置付けというのは、本当に難しいですね。私は、今年度はじめて社会教育委員をさせていただいて、全く分からない部分のところから入らせていただいて、一度目の研修会で、何となく“ああ、そうか”と思うと、どんどん、どんどん広がっていくんですね、立場的なものが。そうなっていくと、ここでも、やっぱり自分たちの役割はあるのかなと、いろんな場面、場面で、そういうふうによく共有したり、いろんなことを思ったりする中で。ただ、私が思ったのは、研修会とか、そういうものにどんどん参加して行って、そうやって、いろんなことを聞かせていただくことで分かっているのかなという感じがします。そういうふうに思っています。</p>
<p>議長</p>	<p>昨年度のC委員さんのレポート、まとめを書いていただいた中に、根本的な、そういうところの指摘が、委員さんとしてのメモの中に、社会教育委員としての仕事のところの部分で、案外、基本的な指摘の、研修会に行かれた時の社会教育委員の立場で、どうのこうのということを書いていらっしまったので、ちょっと頭にありましたので、改めて書かせていただいて、これは、また、事務局の方、参考になるのではないかと思います。</p> <p>A委員さん、いかがでしょうか。</p>
<p>A委員</p>	<p>やはり、私も、いま、F委員さんがおっしゃったように、社会教育委員というか、社会教育って何なんだ、みたいなのが、ずっと疑問に思っています、今も。この間、研修に行かせていただいた時に、講師の方が、私、レポートにも書いたんですけども、プロセスというのでしょうか、例えば、何か講座を開く場合も、どんな内容で、場所はどこで、どうやって募集するのかとか、そういうのを話し合うことが社会教育だというふうなことをおっしゃったかと思うんですね。どうしても、私は、私たちといってもわかりませんが、結果の方に目がいってしまうんですけど、そのプロセスが社会教育だと。では、何のために、社会教育があるのかというふうに考えていくと、また、この研修の内容になるんですけど、一人ひとりが「自在に生きていく」という書き方だったと思うんですけど、自分で考えて、自分の意見を、自分の言葉で発言できることが究極の目的というようなことを言われたような気がしたんですけども、本当に、私も、その通りだと。社会教育というのは、みんなが、一人ひとりが社会の中でそうやって生きていけるようにすることなのだろうと思うんですけど。そんな大きなことを言ってもなんですけど。では、社会教育委員というのは、そのために何が出来るのかというふうに考えると、以前に、社会教育委員をなさっていた方がよくおっしゃっていた、そういう場をしっかりと作っていく、そういうプロセスをサポートしていくのが社会教育委員の役目なのだろうなというふうに思いました。B委員さんがおっしゃったように公民館の、多分、運営委員というのを作られるのも、そういうプロセスをサポートする、ことなのだろうなと。ですから、社会教育委員と</p>

<p>議長</p>	<p>して、そういうプロセスをサポートしたりすることが重要な仕事だと思うのですが、逆に、そこから出すぎないようにするというのでしょうか、それも必要なもので、余りにも、手を出しすぎたりしていくのも問題がある。人とのつながりも、そうなんだと思うのですが、つながりを強調していくと、それは、しがらみになっていくと。私たちも、どこまでが社会教育委員のスタンスかというのを、よく分からないところも、私にもあるので、誰かに教えて欲しいなと思います。</p> <p>この議題には、以前会長をなさっていた学識経験者の方のレポートをもとにして研修会をやったことがあるのです。常に、年度、年度で、原点に帰りながらということ。また、そのへんは事務局の方のベテランもいらっしゃいますので、アドバイスというか、参考意見をいただけたらと思います。</p> <p>そうしますと、まだ1ヶ月ありますので、今日の意見なんかもまとめて、皆様方に、個々に連絡を取りながら、副議長とも相談しながら、まとめさせていただきたいと思えます。</p> <p>そうしますと、残り時間があまりありませんけど、各委員さんの方から、独任制ということ、何回も、しつこく言っておりますが、今度は、皆さん方の手元に各委員さんの分がいつていると思います。これを、何か、学校の授業のような感じになりますけど、皆さん方が、この24年度で、一応、自分なりに、短い部分ですけど、まとめられた部分を、お互いに披露しあって、終えたらというに思います。</p> <p>それでは、A委員さんの方から、お願いしたいと思えます。要約でもいいですし、全部の話でも。</p>
<p>A委員</p>	<p>いま、直前に申しあげたようなことを、今回のレポートには書かせていただいています。プロセスが大事だということ、先程も言いました、人とのつながりの内容が、インターネットの発達でいろいろ変化してくるのではないかという内容を書かせていただいています。それくらいです。</p>
<p>議長</p>	<p>引き続き、お願いいたします。</p>
<p>B委員</p>	<p>私も、先程、発表させていただきましたが、それに加えて、私にとって魅力的な公民館講座が緑台公民館でありまして、そこに“ゴスペルを歌おう！”、“ポップスを歌おう！”という公民館講座があり、抽選で、二つとも当選しまして、それをきっかけにして、館長さんやら、講師先生のご協力もいただきながら、緑台公民館の登録グループを作ったんです。そこに、会員として入ってこられた方々と出会いまして、その出会いから、ボランティアをはじめとして、数々の公演とかを企画させていただいて上演しまして、最後には、川西市民創作ミュージカル「川西の金太郎」を企画・製作・上演に至りました。そのきっかけ、出会いという、きっかけがなかったら、そこまで発展していかなかったと思うんです。だから、魅力あるというのは、それぞれみんなに、それぞれですけども、私にとっての魅力ある公民館講座でした。その公民館講座、それぞれに魅力があるのですから、運営委員を作られて、それぞれの意見を出されて、講座を考案されたらいいなと思ひまして、これを書かせていただきました。</p> <p>ミュージカルの「川西の金太郎」ですけども、その中で、郷土愛やら、友愛とか、心</p>

	<p>の教育とか、いろんな生涯学習、それからプロの指導もいただいていますので生涯学習、それから社会教育とかの一端を担っていたと思うんですね。そのような発展をするような素敵な出会いができる公民館の運営委員会を作ったらいいなと思ひまして、書かせていただきました。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。そうしますと、また後から意見交換等、事務局の方もご意見をいただけたら思っております。公民館講座。 次は、C委員さん、お願い出来ますか。</p>
<p>C委員</p>	<p>これは、私が皆様の前で、以前、ちょっとさわりをお話したかと思いますが、地域で、この題字のとおりでございます、何とかの形で、上手く、地域と家庭と学校がいけるような形になっているなというのを、一つ、ここにご紹介させていただいたわけです。この他にも、防犯パトロールなんかもしてまして、子どもさんたちが帰ってくると“お帰り”というようなことで、“ただいま”というような掛け声があったり、また昔は、私の住んでいる地区はすごい子どもさんの数で、班長さんがいて、班ごとに並んでいっていたのですが、こここのところですが、実は、“この地区で学校に行っている人が何人おるねん”と聞いたら30人程しかいない。しかも、“今年は、新入生は何人や”と聞いたら、“1年生が2人です”とか、そんな状況下にあるわけです。ですから、いわば若かったまちが、いつの間にか、言葉は悪いですが、老人のまちになって、子どもさんが、そろそろ、いわば、お孫さんの年になっているんですね。そのあたりが、まち全体で、上手くいけるように、というような形で、こんなことを書かせていただいたようなことで、上手く運営というか、されているのかなというところを、一例として書かさせていただきました。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。D委員さん、お願いします。</p>
<p>D委員</p>	<p>私は、学校支援地域本部に所属させていただいてまして、そちらでかぼちゃ教室なり、いろんな企画をさせていただいて、本当にボランティアの皆様といっしょに活動出来てきているな、5年目になったのですが、いろいろ出来てきているなと思っております。ただ、未だに、学校に連絡させていただいたら、ご存じない先生が多いのがちょっと残念だなと思うので、そういうところを、何とか、本当に、学校と密にできて、学校の要望をきけてボランティアの方とつながれたらいいなというのは感じています。学校支援地域本部事業の会議で発表があったのですが、神戸市では各学校に学校支援とそういうのをつなぐ担当の先生を置かれて、直接、先生方とに、情報をお伝えしていただける先生がいらっしゃるそうなので、そういうのを川西でも考えていただけたら、もうちょっと密になるかなと思ったりします。ただ、ボランティアでお手伝いいただいた方に感想で、本当に、交通費も出なくて申し訳ないなと思っているのですが、子ども達の方からパワーと元気をもらって、本当に楽しかったという感想をいつもいただくので、つなぎ役をさせていただいて、私も嬉しいなと思ひますのと、ボランティアの方から、今回はミシンのお手伝いをいただいたのですが、なかなか家庭科というのは重要視されてなくて、美術や音楽は専門の先生がいらっしゃるのですが、家庭科はいらっしゃらなくて、お手伝いに行かせてもらっても、ミシンなんかでも、“もう、ここまでしか、指導しないんです”と一言い切られるみたいなので、すけれども、「いえいえ、ここをきちっと、この時期にきちっ</p>

	<p>と教えとかないといけないし、家庭科の楽しさを、小さい時に教えておいて欲しいな」というので、そういうのを教育委員会の方へお伝えして欲しいという声もありましたから、ボランティアの方の声もまた教育委員会の方へお伝えするのが私たちの仕事かなというも感じております。</p> <p>それと、先程も出てきましたけど、聴き方を勉強させていただいて、今年は本当にいろんな悲しいニュースがいっぱいありましたので、すごく、この聴き方を広めたいなと思っています。先程、A委員さんが言われましたけど、社会教育、みんなが自分の思いをきちっと発表する場を作っていくというので、今は、学校でも、正しい答えを言わないといけないとか、家庭でも、お母さんが喜ぶ答えを言っていたら怒られないだろうとか、そういうのでなっていると思うんですけど、まず、その子の感じたものが、その子の思いなので、一旦受け止められるという、そういう社会が出来ていたら、怒られないだろうとか、こんなこと言って大丈夫だろうかと思わず、自分の意見をきちっと言うという、そういう、みんなが自分の思いを発表できる社会、そういう場ができればいいなと思っています。</p>
議長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次は、E委員さん、よろしくお願いします。</p>
E委員	<p>社会教育って何やらなといって、混乱している時に考えていたんですが、80年代が一番、中学校が全国的に荒れた時代だなというふうに思っています。80年代の後半ぐらいから、大分、落ち着きはじめてというようなことがあるのだけど、その落ち着きの中でも、大事にしないといけないことは何なのかというところで、生涯学習、80年代の半ば前後ぐらいですね、中曽根内閣の臨教審のあたりから生涯教育、生涯教育は、また生涯学習というふうに言い換えられてみたりする、概念的には曖昧なのですね。それを、もう一回、自分なりに整理をし直してというふうに思って、これを書かせてもらいました。これを書いた後で、先程の宝塚での研修を聴いたら、だいぶ同じようなところを言っていたかなというふうに思って、嬉しく思ったわけですけども。ただ、生涯学習という概念は、とっても大事で、本市では生涯学習部という部があったのですが、それがなくなってしまっているのが、“あ”というふうに感じているわけですが、生涯学習というのが、どうしても学校を卒業してからの教育、学習の場というふうに捉えてしまうんですけど、本当は、そうではなくて、臨教審の精神から戻ると、家庭教育、生まれてから学校へ行くまでのところの、とっても大事なのだというようなことで、一生涯、生まれてから死ぬまでの教育が生涯学習であると。そういう全体概念という捉え方です。ですから、生涯学習の中に家庭が、学校があって、そして学校を出てからの社会があってという、そういうつながりの中で捉えるべきだなというふうに思っています。そのへんで、断片的にみると、例えば、体罰の問題が起こってきた時に、これは一切ダメとかというふうに法律的はいわれてしまいますけれども、やはり、2歳・3歳・4歳ぐらい、そのへんぐらいまでは、叩いてしっかりと育つ場合もあると、断片的には正しい部分はあるんですけど、ただ、それは、ずーっと、そのまま正しいのかというと、学校教育で、そんなことでは育たないというのが普通であります。これを、間違えて、勘違いして育ててしまう場合があるんですけども、人生のある部分で正しいことは、全体で正しいとは限らないという、そういう見方をしていかなければならないというふうに思います。</p>

あと、家庭と、それから地域社会、それから学校という、機能がそれぞれ違うということに気が付きながら考えなければならないなというふうに思っています。まずは、親の姿を見て育つという家庭の教育です。これは真似をしながら育っていくという、知らず知らずのうちの教育というような形でいわれることですが、無意識なものであります。親は、カリキュラムを考えながら育てているわけではございませんので、無意識な教育です。ここが大事なところであって、子どもはそれが正しいと思って親を真似していくのですが、非常に、それが歪んでしまう。親は、自分がやっていることは正しいんだというふうに錯覚してしまう。そのあたりに、だいぶ難しさが出てくる。それを引き受ける学校というのが次にくるわけですが、もう一つ、無意識の教育の中には社会教育ですね。いわゆる、家庭、それから学校へ行って、それからまた社会の中へ入っていった時の、これは、普段の生活の中で、これも知らず知らず、教育をされています。知らず知らずに教育というのはおかしいのですが、悪いことも含めてですけれども、いろんなことで影響を受けてしまう。一番大きいのは、やはりマスコミの影響が大きいですね。いろいろ問題が起こった時に、事件が起こった時に、マスコミは断片だけを捉えて報道してしまいますし、ある意図をもって報道してしまいますので、それが、その通りだと思ってしまうようになってしまう。そのへんの怖さ。

それともう一つに、先程言われましたように、インターネット社会というのは非常な落とし穴があって、それを読むと本当かしらと思ってしまうけど、全然、実体は違うということが多々あるという、こんな社会、世の中になってしまっている。そういうことを踏まえて、学校の教育というのは、これはもう意図的な教育ですね。これは完全にカリキュラムの中に位置付けている教育のシステムでありまして、システムですから、関連性が全部あるわけです。ですから、そのあたりが大事なことだなということです。要は、小学校の中に、丁度、90年代ぐらいの学習指導要領に、小学校の一番最初のところの、理科とか社会とかいっていた部分が生活科という言葉に変えられた時代があります。この時代は、要は、本来なら家庭でやってこななければならないような社会へ出るためのトレーニングの一つを、ルールを守るとか、あいさつするとか、ごみを拾うとか、人の話を聞きなさいとか、本を読みましょうとか、そのようなことを家庭で本当はやってこななければならないことが、随分、飛ばされて、もう一回、そのあたりを学校の最初でやりましょう。生きていくために必要な最低限のことですよというようなことをイメージトレーニングの場として組み込まれた時代があります。これは、家庭の機能というのが、随分、学校の方に押しやられて、そして、学校が、また、何でもやらなければならないということの始まりだったかなというふうに思っております。そのあたりも含めて、何が問題でこんなふうなカリキュラムになっているのか。本来は、やはり、地域の人とともに家庭の中でとか、そういうところがあるのではないかと、そんなふうに思っています。

それから、関連性でいえば、一人で生きていけなくなった社会でもありますので、いろいろ科学技術の進歩とともに、また、国際化、情報化、少子高齢化と、いろんな変化が社会の中で大きく、90年代ぐらいから表われた時に、大人が幼児化してきているというようなこと。自分では何もできないという感じで、今の時代になると、それに逆らって、全部、自分でやってしまおうという人も出てきているのですが、しかし、大概のものは、人に縛られたり、人の作ったものに縛られるという他律的な生活になっているということが、今の、いろんな生きる力を阻害しているという原因を作っているのではないかなというような気がしてしかたがありません。ただ、全部、情報化で、いろんなことが機械化、

電卓が学校の教育に入ったりと、いろいろな電子化が進むというのは本当にいいのかなというようにも考えなければ、ただ、国の方策で、そんなふうにしていきましようということになっていきますけど、それに逆らって、もっと手作りなもの、自分の体を動かして得るものとか、そういうものが大事だなというふうに思います。体勢が低下したという面も、それに絡んで、つついカットするような場面というのが増えるというのが、そういうことになりますし、非常に免疫力が低下したり、それから花粉症なんかも、どんどんどんどんと酷くなるという、いろんな意味で、社会の変化をもろに人間の体が受け止めているなという、そのあたりからの延長上で、その精神的に、感情的な体罰とか、それからいじめというのが出てくるのではないかなと。ただ、これは、昔もあったことであるといえればそれまでなのですが、そのへんの質的な変化もあるのではないかなというふうに思いますし、心の方で、鬱的な傾向も、それも含めてということになります。ただ、先程も、ちょっと言いましたけど、体罰というのは、法律でこう書いてあるから駄目ですよなんて、そういうことではなくて、もっともっと教育論の中で、本当に子どもが育つためにはとか、スポーツでこんな選手にと、楽しみながらというようなことがあったりとか、そういう基本的な教育方針の中に、そういう指導論が入って、その中に、本当に、体罰というのはいいのか悪いのかということを考えるような場面がなければならぬというふうに思います。つながりを作るということは、非常に難しいことですね、先程も、阪神北の研修会でまとめの中で言わせてもらったのですが、なかなか学校とともにというのは難しい面があるのですが、そういながらも、やはりカリキュラムを構成して、意図的な教育をしているのが学校ですので、やはり学校というのが中心になって、地域を巻き込んでいくという、そんな場面を作っていかなければ、なかなか、地域は地域で勝手にやっていますみたいなところはあるのですが、そうじゃないと、その勝手にやっているところも大事なのですが、そのポイントポイントが何かつながるかなというのは、学校がそこへちょっと絡むかなという、そのあたりがものすごく大事だなというふうに思うんです。さきほど、B委員が、公民館での活動というのはとっても大事な活動をされているんだけど、学校と何か連携して、この場面では学校のこのへんをちょっと工夫して、何か取り入れて、地域の中にかえすと、そういうようなことが連携して、カリキュラムとまではいかないのですが、もっと密な関係で入り込んだらいいことも出てくるのではないかなというふうに、ちょっと思った次第です。

学校というのは、いろんな意味で生涯学習の中核でありますので、学校の管理職の先生のリーダーシップというのがとっても大事だなと思っています。自分がなかなかやりきれなかった部分もあって、反省を込めて言っているわけですが、なかなか管理職がこんなふうにやりたいなという、まず夢を持ってほしいんですが、その夢を現実化するためには、皆さんの、皆さんというのはそれを支える職員も含めて、PTAも含めてなんですが、そこへ理解をしてもらおうということがとっても大事なことなのですが、どうしても職員の方には、悪しき前例踏襲主義みたいな、前、やったことがないことを入れるのはどうかと思うみたいなことがどんどんあると、何かやろうとしてもそこで止まってしまうという、それを、いろんな所からサポートしてもらおう。これは、市の方も、そういうようなことを管理職が考えた時にサポートするようなシステム、それは財政的にもサポートも必要です。まず、プランを立ててもらって、そして、市がそれを後押しするというような、何か、そういうサイクルで新たなものを生み出すということが大事だなというふうに思いますので、また、そのあたり提言させてもらいたいと思います。

	<p>最後になりますけど、やはり、いじめ・体罰が、今年は滅茶苦茶多かったという気がしますし、これも、本当は、昔からあるけども、ああして命に関わる問題が起こるとマスコミが取り上げるものですから、特別にというような年になったような感じもいたしますけども、とにかく風通しの悪い空間、閉鎖空間がある限りは、ずっと同じことが続くと思います。やはり、そこが、もっともっといろんな人が学校の中に入りこんでいるよ、子どもに声を掛けているよというような場が必要だと思います。学校は、全部、家庭に問題があるからこうなるんやというのは、学校の立場の者が自分たちの分析の場で言うのは当たり前のことではいいのですが、公的な場面で、「家庭に問題あり」なんていうのは、学校の者が言ってはダメだと思います。我々、社会教育委員は立場だと思います。やはり、「家庭に問題あり」はあるのですが、学校が、まず、それを言うなよと思います。やはり指導力不足という原因もありますので、学校の方も自分たちを振り返ってもらいたいなというようなことです。</p> <p>それから、地域は人材の宝庫ですので、いろんな人たちが入り込めるようにしていただくということで、いろんな子どもたちが孤立して、盛んにSOSを発信しても、なかなか、それが拾い上げられないし、聴いてもらえないし、そうしたら命を絶ってまで抗議しようかという子どもが出てくるということになってきますので、“そうじゃないよ、支えがあるよ”というあたりで、もっともっと体験的な学習も中心にしながら、感謝の気持ちを育てるような学校教育があればいいな、そして社会での教育もあればいいなというふうに思います。道徳的なことが、いま、文科省の方でも審議されている、道徳を教科にしようかといういろんなことを言っていますけど、そういうようなことよりも、日々、どんなふうなことを言っているか、子ども達の学校での学びの中で道徳的な気持ちが反映されることがあるのではないかなというふうに思いますので、教科がどうのこうのではなしに、やはり、本当の意味で、必要な人を思いやる気持ちを育てるような教育環境が必要ではないかなというふうに思っております。</p>
議長	<p>ありがとうございます。F委員さん、よろしくお願いたします。</p>
F委員	<p>E委員の考察を見ながらお勉強をしたいと思いますという感じで、私の場合は、本当に、1年を振り返ってというか、自分が携わっているものごとを考えていくと、全てのことに社会教育は関連しているなという部分があると思います。本当に、何をこう書いたらいいかということがまとめづらくて、それで、今、現在、自分で思っている心境とか、そういうことをまとめさせていただきました。</p> <p>一番、なかでも、研修会に参加させていただいて良かったという思いと、それから、先程、事務局がおっしゃったのですが、市の方からの地域分権の話がでましたけど、その地域分権の推進事業の中で、先日から、地域で、地域の夢未来カフェというのが、行政の方からありまして、それは、私の住んでいる地区でも、前年度も3回あったのですが、今年度はそういう形になって3回開催されました。その時に、夢を話すとか、そういう話で、今後、このまちづくりをどういうふうにしていったらいいとか、そういうふうな話をしていく中で、各グループに分かれているような協議をする中で、私たちのグループはこの地区をどういうふう、今後していきたいかという話を中心にまとめていったわけなのですが、C委員さんがおっしゃったところでは、すごく子どもの数が少ない。私の地区の場合は、1期・2期と住宅が売り出されていって、一旦は止まったのですが、また、その</p>

後、売り出されて、最後、最近、マンションが建ちということで、川西の中では、すごく子どもの人数が多いところなのです。そういうこともありまして、どうしてもいろんな行事をした中で、行事の時には学校もいっしょに入ってくるし、子どもはやはりいつも地域との交流の場には出てくる形になりますので、いつも地域と家庭であるとか、学校であるというのは、交流する場というのは提供されているのですけど。その夢会議で話された中で、今後、漠然とですが、こんなことをしていきたい、あんなことをしていきたいということが、すごく活発に、夢でないかのように“深山池遊園プロジェクト”とか、深山池というのがあるのですけど、その深山池公園も、何となく、ただ広だけの公園になっているから、あれを何とかして、皆で、“遊園”という、遊ぶ園といったらおかしいですけど、そういうふうなプロジェクトで、それこそ、地域から、今まで何でも市からの提供であったのを、地域が考えて、地域の住民が考えて、それを集って、していく場合に、どんどん広めていけないかということで、すごく活発な意見がいっぱい出たりして、すごく楽しかったですね、その話し合いは、そういうふうなことを考える中で、それも夢じゃないなという話になってきまして、そうしたら、そこで何が出来るかと、自然がいっぱいだから自然観察会であるとか、お料理とか、本当は公園では出来ないけど、そういうふうなパーベキューとか、そういうふうな集うようなところが出来ないかと、いろんなことがどんどん広がっていく中で、そういうことを話し合っている中で、していくと、そこで、社会教育委員として、皆からの、そういう話も拡がって、まとまっていく中で、何かお手伝いできることってあるのではないかと、ふと、何か、自分の立場的に考えたりしながら、今後、どんなふうなそういうことがなっていくか分からないですけど、地域とか、組織とか団体の中で人間関係も生かして、そこで、自分が研修を重ねて、他のところから、こういうふうなことができるのではないかと、そういうふうな案があったら、それを持ち出したりして、どんどん、これから地域のためにもしていけることってあるかなと、ふと考えたりしたのですが、そういうことでまとめさせていただきました。

議長

ありがとうございました。

他の委員さんの分、G委員さん、H委員さん、I委員さんはレポートの方が出ておりますので、また、それは読んでいただいて教育委員会の方に提出したいと思います。

私の方は、ほとんど昨年と同じことを書かせていただいております。やはり、社会教育委員の役割が、8年間やらせていただいて、社会教育というところの部分の概念というのが、改めて自分の中で常に葛藤しながらやっているのですけど、やはり片隅に置かれてしまっている。一番最初に言いましたように、生涯学習という言葉のあやの中で空中分解をしているというか、チャンボンになっている部分を常に整理していかないとだめだなという思いがあります。そういうことで、特に、この一年、具体的な形で感じているのが、論議の中で、いじめの問題というのが、現実的な問題で、結構、委員さんの何度が論議がありました。たまたま、私が専門委員、川西のオンブズパーソンをやっております、9年間ほど、ほとんどケース会議、300回近く出させていただいております。制限がある会議なのですけど。それで、いろんな事件が起こっていきますけど、聴くという言葉が一つのキーワードにはなってくるのですけど、やはり、人権という意識の部分の捉え方というのが、やっぱり大人社会、社会の歪みの部分もあるということは分かるのですけど、特に、子どもの人権という部分で考えてみますと、いま、いろいろ論議をやっていても、結構、幼児期の子どもたちが、中学校や小学校の暴力やいじめより、実は、子育て関係、幼

児や子どもさんとの関係の部分のケースの関わり、先生方の関わりが、結構、多いのが実態の部分があります。それと、やはり、中学、高校は大人社会の、俗にいう教育現場の部分、教育機関の部分と学校の、市の機関しか大きな権限はございませんけど、これの位置付け、12年程経ちますけど、まだまだ、名前がよくないの分かりませんが、なかなか理解をしてもらえない部分というのがある。これは、分からないでもないんですけど、やはり公的な、違った立場で、いろんな人権の立場を見ていくという視点というのがものすごく大事だし、特に、教育現場なんかは、抵抗感は、やはり、一つの閉鎖社会的なところはあつし、ところが一生懸命頑張っているらしいので、行政関係もそうなんですけど、案外、その認識、制度の理解を、改めて、我々というか、行政あるいは教育機関等も含めまして、再認識をやっていかなければいけないということを感じております。

それと、支援本部の方も、社教の方から出ささせていただいて、実行委員長をさせていただいて、D委員さんなんかを中心に動いていただいておりますけど、本当に、学校とのつながりの部分、難しい部分もあるんですけど、やはり、子ども達のためではあるんですけど、先生方の部分も違った意味での地域からの関わりの部分で、アタックはするんですけど、なかなか難しい現場があるという部分をさらに詰めていかなければいけないのではないかと感じております。

それと、本当に、具体的でございますけど、去年も書かせていただいておりますように、学校教育との関係の部分ですけど、地域との関係なんですけど、中学校区中心とした教育推進を行っていくという24年度の川西市教委の方針がございましたが、私は、もう少し詰めて、学校ごとに、例えば、教育推進会議、公民館では運営委員会なんかといわれましたが、その充実を図っていくシステムをもう一度考えた方がいいのではないかなというように思います。

最後に書かしていただいているのが、生涯学習施策部門ですね、生涯学習部が空中分解で、行政ラインではなくなっておりますので、やはり、その位置付けを、もう一度考えていただかないといけないかなと。例えば、公民館の問題なんか、市施策の中で一つは出てきたとはいうのだけど、一体、どこが核になって、こういう文化、学習、生涯学習施策を大きな柱の中にあるかと思ったら、見えてこないという、個人的には感じております。だから、つまみ食いのような形で25年度もいくのかなという、根本的なところの部分が、川西として出していただけたら。それぞれ、本当に、こども政策の部分やら、教育委員会サイドの部分は、一生懸命すごい活動、特に、放課後こども教室なんかすごいですよ。だけど、よく考えたら、地域、学校、そのあたりの、一つの骨のところの部分がちょっと分からないのです。申し訳ないですけど、ですから、これ、多分、行政ラインも含めて、市町村によって、結構、差があるんですね。放課後こども教室、これを教育委員会でやっているところもありますし、福祉がやっているところもありますし、川西市のようにこども部がやっていたりというようなところで、何かまだ、青少年問題なんかについても、うろろろしているような部分がありますので、これは川西市だけの問題ではないと思うんですけど、また行政サイドの方で、再度、考えて、我々も考えていかなければいけないかという印象を持っております。

そうしますと、意見交換ができなかったんですけど、これはというところで、各委員さん、質問等々がございましたら、いかがでしょうか。ありませんでしょうか。

A委員

一つ、よろしいでしょうか。

	<p>独任の立場でというふうにおっしゃったので、テーマというか、今までの皆さんのお話でも何度も出てきた言葉で、学校と地域と家庭が繋がっていく、人と人が繋がっていくことが大切だというふうなお話が、いろんな角度から出たかと思うのですが、それを聞いていて思ったのですが、これは例なのですが、学校に地域の方が入っていきこうとすると、一種の拒否感のようなものがあって、なかなか連携が上手くいかないというようなこともお聞きしたかと思うのですが、私はつながるといことで、負担が増えてはいけないと思うのです。片一方、つながられた方といったら変なのですが、一生懸命、手を差し伸べる方はいいのですが、それでもって、片一方の方がそれを負担に感じると、絶対につながりは上手くいかない。手を差し伸べた方の、いわば、独善に陥らないように気をつけていかないと、せっかくのいい考え方とか、思いが無駄になってしまうんじゃないかなということ。だから、常に、両方、自分は一生懸命やりたいという思いは分かるのだけど、それでは、それを受け入れる方の負担はどうなるだろう。どちらも負担がないようにしていかないとつながりは上手くいかないだろうと思うのです。もう一つ進めば、つながったことで双方が、何か、こう、今までよりも力をもらったとか、元気が出たとか、よりよく生きていけるようになったとか、そういうメリットがあれば、もっともっと発展していくだろうと思うのですが、最初のとっかかりのところで、みんな、それぞれに自分のやり方でやっているところにポンとこられると、ちょっと、先に、拒否感のようなものが出てしまうから、そこは考えていかないといけないのかな。つながりは大事なんですけどね。</p>
<p>議長</p>	<p>ですから、学校教育ラインの部分で、いま、E委員さんがお話された、ある意味では、学校教育というのはカリキュラムがしっかりしているのです。先程、ミシンのお話ができましたのと、これは、カリキュラムの指導内容というのが、きちんと要綱なんかで決まっているので、その範囲を超えたところまで要求されてくると、現実はどうなのかと、学校の方は考えてしまうのですよ。それは一つの要求になって、あそこまで、ミシン、やらないとあかん、内容までやっていたら時間も足らなくなる。そこは、きちんと、基準というのが決まって、そのあたりは、というようなこと、違った角度、教師サイドから考えて。</p>
<p>D委員</p>	<p>私も、あまり家庭科が得意でないから言えないのですが、お話を聞いたのは、バッグを作ったのかな、裾をまつところを、ほつれないように切っただけなので、裾はまつらなくても、教科書には載っているのだけど、“ここまではさせません”というような言い方をされたので、男の先生、本当、若い男の先生が、そういうのを私も出来ないのにといたらあれなんですけど、生徒みんなに細かいことまで教えられるかといったら、ちょっと難しいなと、担当されたお母さんも言っておられたので、一人、専門の先生がいらっやって、そうしたら、もっと、子どもも楽しい、出来上がって、楽しいとこまで感じたら、もっと、家庭科というか、裁縫が好きになったりするのだろうけれども、そういうお手伝いが無い時は中途半端に、今回、ボランティアが入ったので全員が仕上がりましたという、先生の言葉だったのですが、普段は、多分、出来なくて、持って帰ってとか、宿題でしたりする子が多かったのかなと。</p>
<p>議長</p>	<p>ですから、具体的に、一つ一つ、いろんな場面で、人権教育でもそうですし、福祉の問題でもそうですし、家族の問題、躰から、家庭の部分からという、そのあたりの仕分け</p>

	<p>が、非常に、それぞれ立場を考えてつないでいくという、あんまりそこに拘らない形で、学校の先生は、きちんと学力をつけて、その学力もまたいろんな学童の学力もありますので、そのあたりを、我々として論議をしながら、川西市の実態はどうなっているのかというようなことで論じていって、また行政サイドの方で参考にさせていただくという形にしなければいけないなと思います。</p> <p>ただ、もう、会議時間がありませんので、社会教育委員の会を、この一年間、6回にわたってやりましたが、公民館活動、過去、居場所のところで公民館であったり、公運審がなくなったというような背景もあって、来年度以降、この進め方については行政事務との連携をしながら、具体的な形で、施策として取り入れていただけるような一つの意見として、この委員の会として、このように一人一人がシビアな形で出していただいておりますし、良かったのではなかろうかなと思っております。</p> <p>次に、来年度の社会教育関係団体に対する補助金についてであります。事務局から説明をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">事務局から、来年度の社会教育関係団体に対する補助金についての説明が下記のとおりあった</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">川西市PTA連合会</td> <td style="text-align: right;">283,000円(本年度と同額)</td> </tr> <tr> <td>川西市立幼稚園PTA連絡協議会</td> <td style="text-align: right;">45,000円(本年度と同額)</td> </tr> <tr> <td>川西ユネスコ協会</td> <td style="text-align: right;">90,000円(本年度と同額)</td> </tr> <tr> <td>川西市婦人会</td> <td style="text-align: right;">90,000円(本年度と同額)</td> </tr> <tr> <td>学校支援地域本部事業実行委員会</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">1,188,000円(本年度比108,000円の減)</td> </tr> </table>	川西市PTA連合会	283,000円(本年度と同額)	川西市立幼稚園PTA連絡協議会	45,000円(本年度と同額)	川西ユネスコ協会	90,000円(本年度と同額)	川西市婦人会	90,000円(本年度と同額)	学校支援地域本部事業実行委員会			1,188,000円(本年度比108,000円の減)
川西市PTA連合会	283,000円(本年度と同額)												
川西市立幼稚園PTA連絡協議会	45,000円(本年度と同額)												
川西ユネスコ協会	90,000円(本年度と同額)												
川西市婦人会	90,000円(本年度と同額)												
学校支援地域本部事業実行委員会													
	1,188,000円(本年度比108,000円の減)												
議長	<p>説明は終わりました。ただ今の説明について、何か、ご意見、ご質問等はありませんか。</p> <p style="text-align: center;">(発言なし)</p>												
議長	<p>ご意見等もないようでございますので、25年度の社会教育関係団体に対する補助金については、ご承認いただけますでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(承認)</p>												
議長	<p>それでは、来年度の社会教育関係団体に対する補助金については、ご承認いただいたものといたします。</p> <p>最後に、来年度の兵庫県社会教育委員協議会等の日程について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">事務局より、資料2にもとづき、来年度の兵庫県社会教育委員協議会の総会・研修会、研究大会並びに全国社会教育研究大会の開催予定等についての説明があった</p>												

議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>丁度、時間になりましたんですけど、先程の年間研究テーマについては終わらせていただきますが、教育委員会への報告書につきましては、文言の修正やら、提出の時期や方法につきましては、正副議長の方に一任いただけますでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(一 任)</p>
議長	<p>それでは、ご一任いただいたものといたします。</p> <p>なお、次回の社会教育委員の会は、4月24日の水曜日、午前10時から開会を予定しておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本年度の会を終わらせていただきますけど、最後に、部長さん方から、何かございましたら、よろしく願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">教育振興部長から、この一年間の委員の活動等に対してのお礼の挨拶があった</p>
議長	<p>どうも、ありがとうございました。</p> <p>各委員さん、今年度は、これで終わりという形になります。事務局の方も、本当に、1年間、いろいろとアドバイス、資料提供等いただいたことを感謝申し上げたいと思います。</p> <p>それでは、本年度の委員の会を終わらせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>